

## 令和7年度 福島県かえで荘 地域連携推進会議 議事録

開催日時： 令和7年度10月22日（火） 10時00分より11時45分

開催場所： 福島県かえで荘

進行役： サービス管理責任者

### 1.開会および出席者の紹介

進行役より、開会の挨拶がある。

#### (1) 出席者の紹介

地域連携推進委員

お客様のご家族：1名

苦情解決第三者委員：2名

かえで荘のお客様

男性：1名

女性：1名

施設側職員

園長、次長兼業務係長、援助係長、サービス管理責任者：計6名

### 2. 園長挨拶

園長より令和7年度地域連携推進会議の開催にあたり挨拶がある。

### 3. 本会議の趣旨と目的説明

- ・利用者と地域との関係づくり
- ・地域の人への施設や利用者に関する理解の促進
- ・施設やサービスの透明性、質の確保
- ・利用者の権利擁護

### 4. 施設と地域の連携について

かえで荘の概要報告

#### (1) 施設の概要と運営状況

事業所名・サービス：福島県かえで荘。主なサービスは、生活介護、施設入所支援、短期入所（空床利用）。

定員：80名（原則 男性40名、女性40名）。

主たる障害は知的障害だが、精神疾患、身体障害、重複障害、難病指定のお客様など、多岐にわたる。

職員体制：40名

障害支援区分：全体平均は5.46で、入所支援の中ではかなり重い方である。区分5、6の方が多く、重度化・高齢化が進んでいる。

年齢構成：平均年齢は男性61.6歳、女性62.6歳（全体で62歳）。最高齢92歳9か月に対し、最若年25歳9か月と年齢差にかなり振り幅がある。

在籍期間：平均28年7か月。長期間利用されている方が多い。

日中活動・地域交流：現在は個別でドライブや買い物に行く活動も実施。地域交流として、地域の商店による移動売店を定期的の実施している。

権利擁護：お客様との対話を非常に重要視しており、毎月、男子棟・女子棟ともにお客様との話し合いの対話を設けている。

## 5. 施設見学

利用者の日常生活や活動の場を見学された。

## 6. 意見交換・質疑応答

### (1) 地域連携推進員からの意見

- ・職員（教え子）が声をかけてくれて感動的でした。
- ・1番最初に子供が入所した時は施設臭がしたんですが、今日は全くなく、衛生面に関してよくやっていると聞いていますなどと思いました。
- ・内装や入浴設備を見せていただき、とても良かったです。
- ・職員のメンタルケアについて、職員に不満がないか、カウンセリングなどのフォローは行っているか。
- ・職員にやりがいのある仕事であることを認識してもらい、労働条件や働き方について不満がなければ、問題な事態は起きないはず。
- ・職員が集まらないことが将来心配。今のところ外国人職員はいないか。
- ・昔、最重度の人が集まる施設で実習した経験があり、フォークが飛んだり、常に誰かを抓っていないとだめな方もいたことを思い出した。そうした行動は、その人の個性や病気がそうさせてしまうものであり、その行動を受け入れて接してあげると、楽しくなるのではないか。
- ・利用者の方から名前を覚えてくれたり、「髪が綺麗だから見て」と言ってくれたりしたことが、とても嬉しく、私の方が嬉しい気持ちになった。
- ・障害支援区分（1～6）について理解ができた。
- ・我が子が障害を持ったおかげで、人間としての幸せや幸福、人間性を学んだ。

### (2) お客様からの発言

- ・グループホームの見学に行きたい。
- ・地元商店の品物を持ってきてもらって選んで買うこと、年に2回の衣類の訪問販売が楽しみである。床屋さんに髪を切ってもらうことが楽しみ。

(3) 施設側からの回答と補足

- ・グループホームに行きたいという意向を尊重し、見学を予定している。
- ・法人全体で年1回のメンタルヘルスチェックを行っており、ストレスがかかっている職員には、精神科のドクターとの面談（カウンセリング）の機会を設けている（職員の希望制）。また、園長や次長との面談も増やし、不満がないか随時抽出している。
- ・現在、外国人職員はいないが、障がい者の雇用は行っている。職員が健康であれば、利用者の方にも質の高いサービスが提供できると考えるため、職員のメンタルケアには気を遣っている。

以上をもって、令和7年度福島県かえで荘地域連携推進会議は閉会。